

2026年4月26日発行

大町山岳博物館友の会 第205号

ゆきつばき通信



行事のご案内（友の会主催事業）

自然観察会 五竜遠見尾根 “花と氷河”

初夏の五竜遠見尾根の自然観察会です。テレキャビンに乗って地蔵の頭から小遠見山まで学芸員の説明を聞きながら歩きます。小遠見山ではカクネ里を見ることができます。温暖化の影響か？氷河がどんどん縮小しています。帰りは白馬五竜高山植物園内をゴンドラ山頂駅まで歩きます。

《期 日》 7月5日（日）午前8時30分～午後3時（白馬五竜ゴンドラ乗り場エスカルプラザ起終点） 荒天中止（前日に実施の判断、中止時は連絡する）

《場 所》 五竜遠見、小遠見山へのトレッキング

《集合解散》 集合：白馬五竜 エスカルプラザ 午前8時30分

解散：白馬五竜 エスカルプラザ 午後3時

なお、大町市役所から乗り合いも可、その場合は市役所出発午前8時

《当日及び緊急時連絡先》
090-3143-9866（宮澤洋介）
090-4064-6257（綿内敦子）

地図上のポイント：
爺ヶ岳北峰、鹿嶋槍ヶ岳北峰、カクネ里氷河、小遠見山 2007m、地蔵の頭 1676m、白馬五竜高山植物園、ゴンドラ「山頂駅」、ゴンドラ乗車口「とおみ駅」、エスカルプラザ

移動時間：
徒歩1～2分、乗車時間8分、徒歩20分、片道90分

集合・解散：エスカルプラザ

大町市役所（8：00）—エスカルプラザ（8：30）・・・テレキャビン・リフト—地蔵の頭（9：30）-----小遠見山（11：30～12：30 昼食）下山—エスカルプラザ（15：00）—大町

- 《対 象》 友の会会員（子ども小学校3年以上）入会希望者・会員知人同伴は参加可
《募集人員》 15名（定員になり次第締切）
《講 師》 千葉悟志学芸員
《参加費》 無料 ゴンドラ（往復）代として大人3,000円、子供1,500円が必要
地域割り引きがある方は別途（集合場所までの交通費及びゴンドラ
料金は各自で負担となります）
《持ち物》 雨具 帽子 サングラス 筆記具 昼食 飲み物 必要に応じて観察
用具（服装は登山装備で、荷物はリュック一つにまとめる）
《申し込み》 6月5日～25日まで 直接、友の会事務局へ（Tel/Fax 0261-23-6334）
集合場所・連絡先もお知らせください

博物館からのご案内 実施エリア等、ホームページをご覧ください

2026 さんぱくフェス 5月5日〈火・祝（こどもの日）〉 午前9時～午後5時

昨年までの「付属園まつり」にかわり、バックヤードを含めた博物館全館を一日たっぷり使った「2026 さんぱくフェス」が開催されます！教育普及と資料の収蔵保管という博物館の役割を楽しく学ぶ1日になります。なお、参加費は無料ですが、一般の方は通常の観覧料（常設展と共通）が必要です。



■常設展スポットガイド（各回エリアが異なります）

博物館の学芸員・専門員が常設展示や付属施設を案内しながら、各展示コーナーの解説を行います。 ※午前 5回実施。時間はいずれも20分程度

■バックヤードツアー（定員：各回先着15名 各回エリアが異なります）

学芸員・専門員が来館者と一緒に、各分野の収蔵庫を案内しながら説明してめぐります。 ※午後 5回実施。時間はいずれも20分程度

■さんぱくクイズラリー〈対象：子ども（幼児～小学生）〉 友の会協力

博物館の常設展示フロアをまわりながら、展示にちなむクイズに挑戦してみませんか？ 北アルプスの自然や歴史について、楽しく学べます。終日実施（9：00～17：00 受付は16：30まで）

※参加者には参加記念品としてオリジナルカンバッジを贈呈します

■さんぱくフォトブース

博物館内に来場記念の写真撮影を自由に行える場所を設置します。

友の会でもお手伝いします。ぜひお出かけください。また、5月2日～6日間、例年通りライチョウガイド及び付属園内の案内、館内案内、展示解説などのボランティアをします。

報告 『冬の自然観察会 スノーシューで行く冬の居谷里』

《期 日》2月15日(土) 8時30分～12時30分

《場 所》居谷里湿原

《天 候》快晴 《参加者》17名

《講 師》岡本学芸員 長沢顧問 他

この日の大町市(アメダス)の最高気温は 16.5℃、素晴らしい快晴に恵まれて、いや、少しは雪のちらつくくらいの条件を期待したのだが、気象条件だけは春真っ盛りとなってしまった。市街地よりはずっと多いものの雪も少なく、ところどころ枯れ葉道をスノーシューで進んだ。

大町市役所に集合乗り合わせして、木崎湖から稲尾沢沿いに上って居谷里へと向かった。そこでスノーシューやかんじきをつけて、林道を南下した。まず、泥炭を採った溝状の凹地を観察した。戦争時、不足する燃料代わりに乾燥して用いたものだ。ハンノキ広場の栈橋付近も雪解けされていてみんなで入れなかったが、ここで、宮澤会長より居谷里湿原がどのようにできたのか、見てきたような話を聞いた。この湿原では南東に向かって水が流れているのだが、北側が幅が広いためか、逆に流れていると思う人が多い。少し進むと、動物の食害防止の検証のため柵囲いをした区域がある。このあたりから少しずつ動物の足跡が出てきた。林道に沿って貯水池方面に進んだ。このあたりでは、イノシシ、カモシカの比較的新鮮な足跡が見られた。岡本学芸員からも冬眠の話を含め足跡の見方などを教えていただいた。湿原に戻ってかさすげ橋を渡って南西側を北上した。このルートは動物の足跡も多かった。ハナノキの芽吹きなどを見ながら、北西部のハンノキの若木の繁茂を観察した。最後に居谷里神社南の小山に上った。狭い場所ながら、テンやウサギの足跡、カモシカの角研ぎの痕、イタヤカエデ、ホオノキの樹皮などを観察した。



何もないようで、その分いろいろな細かいところに目の行った観察会であった。講師初め、多くの参加者から解説をいただき、友の会らしい時間となった。

※居谷里湿原については、ゆきつばき通信 2022年5月191号も参考にしてください。

(担当役員 丸山卓哉記)

報告

令和8年度総会記念講演会 共催 大町山岳博物館

『北安をアーカイブする-忘れられた実業家・横沢本衛を追う-』

《期 日》4月12日(日) 午後1時30分～3時00分

《場 所》山岳博物館 講堂

《講 師》木曾寿紀さん(松本市文書館 専門員)

《参加者》41名

横沢本衛(よこさわもとえ)と言われたって、誰だかわからない(もちろん、下調べはしてみたが)。文書館(?)の人の講演、とっつきにくそうだな。配られた資料は文字が多くてページも多く図や写真が詰め込まれていて、“重い”。正直、そんな気持ちだったかもしれない。

今年の講演は、関学芸員の紹介で、松本市文書館という、松本市鎌田にあって松本市の資料や公文書などを収集保管し閲覧もできる施設の、木曾寿紀(きそ としき)先生により「北安をアーカイブする-忘れられた実業家・横沢本衛を追う-」と題して行われた。アーカイブとは古い記録を収集整理保管し、利用しやすくするものである。北安は近代では大町を含んだ北安曇郡をさす。横沢本衛を軸に、史資料から抽出されたものをつなげていくと、いろいろなものが明らかになっていくというものである。

木曾先生は、横沢本衛の生い立ちをたどりながらお墓や石碑などをみてその人の実在を感じ取っている。また、周辺の人々の残したものからも本人にアプローチしている。会場内を回覧してもらったが、書籍や所縁の品などにも触れている。早口で熱量が半端なく、伝えたいことがあふれ出てくるといった感じで、そのせいか聞く側も集中力が高まった。三部構成というけれど時間が無くなりそうなどと、木曾先生とともにみんなで進行を気にしたりしながら、アツと思う間の、充実した講演だった。この、同じ時に同じ場所においてそのわくわく感を共有するのは、木曾先生の講演のテクニクなのかもしれない。

横沢本衛は、嘉永7年(1854年)に今の白馬村に生まれ、家業の酒屋を継ぎ、地方議員などを経て衆議院議員になった人で、南安曇から北安曇にかけての電気事業、安曇電機株式会社(中房川の発電所など)の創立メンバーで、社長にもなっている。そのようにいろいろな事業をする中で、次第に家が傾き、今ではあまり知る人のないところとなった、ある意味その





時代によくあったストーリーの人である。

第一部は横沢本衛の生い立ち経歴や横沢家のこと。北安曇郡誌や横沢家に丁稚に入った斉藤 瀏の記述などで地方名望家の横沢家が語られる。酒屋だった横沢家は、時代の流れで、麻を扱ひ、追って養蚕を行った。

第二部は安曇電気株式会社の設立の頃を、社史や北安郡誌などをつないで語られた。資本金を減らすなど、事業はなかなかうまくいかなかったようである。また、そのころ衆議院議員となっている。山とのかかわりということで、当時、武田久吉や志村寛が地元調整に苦労しており、横沢本衛らが尽力したことが日本山岳会誌に載っていること、鉱山開発を行ったことが話された。

第三部は横沢本衛の評価である。北安郡誌のような好評な記載もあればアンチもいたようで、ゴシップ的な記事文章の語り口は面白い。最後に、事実に基づいた正しい検証の必要性が語られ、さらなる資料の発見や保存を望まれ、山博での活動にも結び付けてもらいたい旨が語られた。

(編集担当 記)

報 告

令和 8 年度山博友の会 総会

《期 日》4月12日(日)

午後3時30分 ～ 4時40分

《場 所》山岳博物館 講堂

《参加者》33名



宮島順一さんに議長をお願いして、7年度報告と8年度計画が承認されました。

今回は、「令和10年度友の会50周年に向けて」としてご意見もうかがい、以下のような意見をいただきました。

- ・高校や大学の山岳部などに声をかけて山博とのつながりを作ったり宣伝をしていく
- ・今の会組織と別のカテゴリーの集まりがあってよい
- ・発想が固定化してしまう。次世代の新しい取り組みが欲しい
- ・発足時は学生会員もいたり子供も多かった。それも高齢化してしまった

- ・博物館に子供たち、若い人を惹きつけたい
- ・高齢者も参加できる事業をお願いしたい
- ・荒沢第二代会長は、山博と友の会は車の両輪と言った。協働が大切と。博物館からも友の会に協力してほしいことは言ってほしい
- ・山の子村では市内の小学生が参加して活動の場とすることがある。市内学校に協力を求めるのも良い
- ・学校の先生が良い活動をしている例がある。地域ではいろいろな会が様々な活動している。それらのネットワークが作れたらと思う
- ・市民学芸員のような形で市民を募って活動の場としたい
- ・山博友の会は独自性を持った組織であり、やりたいことは手を挙げて進めてほしい

総会資料訂正

2頁 (4)主催事業 表4段目 令和7年20~21日 → 令和7年7月20~21日

表6行目 博物館 岡本専門員 → 岡本学芸員



報 告 研究報告&座談会 山のサイエンスカフェ in さんぱく 2026 (友の会協力)

開催日 3月8日(日) 13時30分~16時 参加者27名

研究報告1 「大町の外来種と市民科学」 学芸員 岡本真緒

研究報告2 「高山植物の花の工夫 -自家受粉を避けるさまざまな戦略-」
学芸員(副館長) 千葉悟志

研究報告3 「大町テフラの噴出源を訪ねて -企画展番外編-」 専門員 竹村健一

研究報告4 「大町市内に現存する立山信仰に関する史料」 学芸員 関悟志
座談会

久しぶりのカフェスタイルのサイエンスカフェとなり、4件の研究報告のあと、4つのグループでそれぞれの興味でサイエンスな歓談をした。結構盛り上がったが、それぞれのテーブルで何が話題となっていたか紹介する時間があればよかったと思う。次回は、参加者から学芸員へ研究を進めるヒントも届けられるようなサイエンスカフェになったらと思う。



烏帽子の会

活動報告 《大峰高原スノーシュートレッキング》

《月日》1月24日（土） 《天気》曇り・雪 《参加者》9名

《コースタイム》

8:30 大町市役所～8:51 カミツレP～9:45 大カエデ～11:15JDL 研究所～11:20 池田町トイレ
休憩～11:45 池田町マレットゴルフ場あずまや（昼食）12:30～13:00 キャンプ場トイレ～13:
50 カミツレP～14:30 すずむし荘温泉～15:30 大町市役所（解散）

《コース状況及び感想》

1週間前の下見の時も雪が少なくスノーシューは履かずにツボ足で歩けました。最強最長寒波がくるということで本番はスノーシューを使えると思っていましたが、下見の時よりも雪は少なく全員ツボ足で散策しました。ただ不思議な事に1週間前よりも雪が多くなっているところもありました。



池田町の有名な観光スポットでもある七色大カエデでは宮澤さんから実際に大カエデの周りをほって根が張っているところを確認してそれよりも広い範囲で立ち入り禁止の杭を打っていることを聞きました。広葉樹は山側に根を張るので大カエデの周りの杭が円形ではなく楕円になっているなどとても興味深い話をお聞きしました。大カエデの小高い山の上からは下見の時には360度の展望が望めましたが残念ながら本番では見える山しか見られない状況でした。

大カエデから JDL 研究所までは一部藪漕ぎもありましたが、カモシカ・ニホンジカ・キツネなどの動物の足跡を探しながらの楽しい散策になりました。

ここでも宮澤さんからカモシカとニホンジカの足跡の区別を教えてくださいました。カモシカはフンをまとめてするのでまとまったフンがあればカモシカで、ぼろぼろとフンが落ちているのはニホンジカだそうです。本当にいくつになっても勉強することはあるとつくづく感じた1日でした。

《感想》

一日中雪予報だったのが、ほぼ曇り空時々小雪、風も弱くという中で実施出来たのはよかったです。とても雪が少なかったため全員つぼ足での散策となり枯れ草の上を歩いたり、ちょっとだけ藪こぎしたりと変化に富んだコースでした。雪の上には動物たちの足跡がたくさんあり、特にウサギの足跡は今日一番多かったように思います。曇ってはいましたが周りの山々も見え、山や木の名前、大峰高原の変遷などが宮澤さんの解説付きでよくわかりました。中でも木についてのうんち



くは楽しかった！

木の南側の年輪が広い、と言われているが、これは間違いとのこと。木と斜面との関係で決まってくるそうです。また、樹形について、大かえでのように周りに木がないときは四方八方に大きくなるが、隣に木があるときは横ではなく縦方向に伸びていくと。木も生存していくために戦略をたっているんだなあ～、と納得でした。



気温が低かったせいで汗をかくことがなくよかったです、手指の先がなかなか暖まらず難儀しました。

最後は、すずむしの湯で温まり疲れを癒やし最高の一日となりました。今回担当の皆様、下見、コースの設定等ありがとうございました。お疲れ様でした。

鈴木幸子

活動報告 《岩岳スノーリゾートスノーシュートレッキング》

《月日》2月28日（土） 《天気》曇り 《参加者》12名

《コースタイム》

9:20 ゴンドラ乗車～9:45 ねずこの森スタート～10:00 アイスクリーム準備～11:30 あずまや着～11:35 昼食～13:30 ねずこの森入口着～解散

《感想》

暖かい日が続いていて雪が融けてしまうのではないかと心配していましたが標高 1,000mの岩岳はまだ雪が残っていました。ただ例年と比較すると少ないと思いました。天気も心配でしたがなんとか持ちそうだったので予定通り実施しました。今回は烏帽子の会の会員で白馬村のガイドをされている太田敏子さんにガイドをしていただきました。事前にお問い合わせの際に歩きながらアイスクリームを作りましょうとアドバイスをいただきレシピも教えていただきました。



ペットボトルに牛乳 200 ml、生クリーム 200 ml、グラニュー糖 30g を入れてそれを 2 本準備してペットボトルを覆うように雪 3 : 塩 1 の割合でビニールに入れて順番にもって歩きました。岩岳は風もあり今までの暖かい日がうそのように寒くとてもアイスクリームどころではないと思いましたが、ちょうどお昼のときに日が差して暖かくなりアイスクリームもおいしくできました。

また今回とてもかわいいゲストが来てくれました。宮澤さんのお孫さんの柊くんです。高齢者の団体の中で元気いっぱい私達も



元気をいただきました。

今回太田さんに教えていただいたことでとても印象に残ったことはブナとホオノキとコシアブラの木の見分け方です。樹皮の感じは似ていますが、ブナは表面がつるつるして上を見上げると枝が混んでいます。ホオノキは小さな



白いイボイボ（白イボちゃん）がついていて上を見上げると枝の間が空いています。コシアブラの木は黄色いイボイボ（赤イボちゃん）がついていてホオノキと同様に見上げると枝の間は空いています。これで今後ブナとホオノキ、コシアブラの見分けができますと思います。

残念ながら北アルプスの絶景は見られませんでした。太田さんにいろいろと説明をしていただきながら約 4 時間楽しく過ごすことができました。

ボランティアサークル

ボランティアサークルは現在 27 名の登録で、昨年度は延べ 211 名の活動参加がありました。

活動が少ない冬季、昨年度は山岳図書資料館の蔵書の整理を行いました。新たな収蔵品を倉庫から資料館に移動収納したり、寄贈元による書籍等の整理を行いました。珍しい本、懐かしい本に思わず作業の手が止まる、そんな幸せな作業でした。なお、資料館については山博ホームページの「附属施設」山岳図書資料館をご覧ください。資料目録もあります。



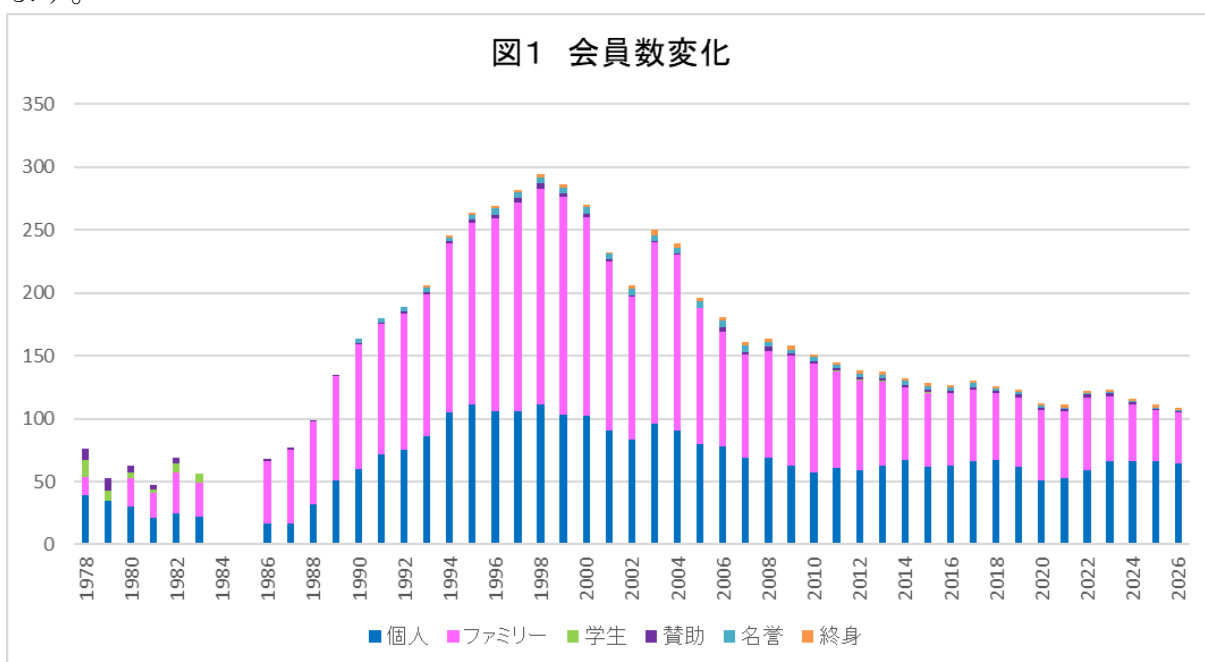
4 月からは館周辺の整備が中心になります。草を抜くと、その下の種が目覚めるといいます。秋まで草との戦いになります。でも、抜いちゃいけない植物もあります。

ボランティアサークルへのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで

山博友の会 50周年に向けて

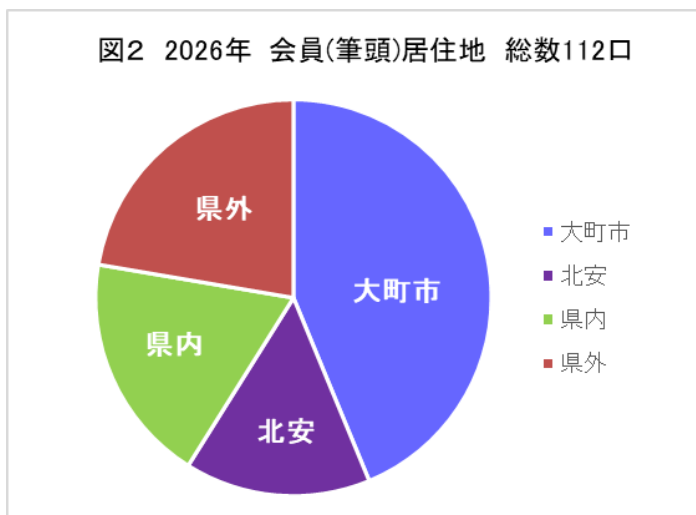
過日の総会でも話題としましたが、大町山岳博物館友の会(新生)が1978年に発足し、2028年に50周年となります。ますますの発展といきたいところですが、会員数も減少し、友の会員も役員もみんな年をとってしまいました。そこで、50周年を機に、持続可能な友の会を考えていきたいと思っています。

大町山岳博物館は1951年に市民の公民館活動から発展してつくられたという貴重な経緯を持つ博物館です。そして2年後の1953年には後に博物館友の会(先代)となる博物館研究会が発足しました。さらにその博物館友の会が1978年に「大町山岳博物館友の会」として再発足し現在に至っています。なお、事務局は博物館に置かれていますが、博物館の外郭団体ではなく任意団体であり、事務作業は主に館外で行っています。



大町山岳博物館友の会の会員数(個人会員数とファミリー会員数)の動向を図1に示します。1998年をピークとし、1980年代半ばから大きく発展し、近年はピークの4割程度の会員となっています。しかし、2010年代半ば以降、家族会員は減少気味ですが、個人会員数には大きな変化がありません。

会員の居住地は図2のようになっています。大町市、北安地区で大半を占めていますが、県内(大北*1を除く)、県外もそれぞれ2割ぐらいつつ占め、重要な構成員となっています。この傾向はピーク時と変わりません。なお、発足時は、



大町市民が7割以上を占めていました。

次に、今の会員の年齢構成(ファミリー会員は筆頭者)を図3に示します。40歳代以下は極端に少なく、50歳代以上が8割以上を占め、高齢者の範疇も半分以上となっています。

役員の年齢構成もほ

ぼ同様です。あと5年10年すると機能しなくなる恐れがあり、なんの手立てもなく会が自然消滅ということも想定されます。すでに、事業も縮小気味であり、定員に満たない事業も多くなっています。

このような状況の中、これからの友の会をどうしていくか、会員皆さんの意見も聞いてこの1年検討し、来年2027年(令和9年度)の総会には方針を示し決定したいと考えています。山と博物館やゆきつばき通信を受け取るだけの遠隔会員も多くいます。高齢で思うに動けない会員もいます。みんな、博物館のこと、友の会のことを思ってくれています。各サークルやボランティアで直接博物館をサポートしている会員も多くいます。できれば、解散したくはありません。良い形で継続できればと思っています。ぜひ、皆さんの声をお聞かせください。また、若い力(中年でもいいですよ)を友の会運営にお貸しください。20歳若返れば、さらに20年は希望が持てます。

そうそう、先細りの話ばかりでいけません、50周年は記念すべき年になるよう、それなりのイベントやゆきつばきの発行を行いたいと思っています。

*1 大北:大町市と北安曇の範囲、長野県の北アルプス地域

(運営部会)

博物館訪問記

公益財団法人 南方熊楠記念館

丸山卓哉

南方熊楠、字面は見覚えがあるかもしれない。みなかた くまぐす と読む。何をした人かといえば、まさに博物。生物が中心になるが民俗学にも深く入り、語学にも堪能で、アメリカ、イギリスに遊学し、日本に戻ってからは紀州に籠って研究活動を続けた。イギリスで知り合った僧侶で仏教学者の土宜法龍に宛てた壮大な手紙に「南方マンダラ」が登場する。奇人変人、驚異の記憶力と学習量。生涯在野で活動した。

館は有名な白良浜(しららはま)の近く、紀伊水





道を望む小さな半島の先にある。本館と増設した新館を渡り廊下がつないでいる。それほど大きな館ではない。新館は常設展で、本館では開館 60 周年の特別展が実施されていた(2025 年 6 月)。常設展では幼少期から生涯の資料を多数展示している。個人的にはイギリスの Nature 誌に初投稿した「東洋の星座」という小文の掲載ページに惹かれた。実際、宗教的に科学の遅れた西洋に対し、東洋は科学を発達させていた。

柳田國男、高橋是清、夏目漱石、孫文、フレデリック・ディキンズ、昭和天皇はじめ多くの人々と時間と場所と様々な学問が交錯して曼荼羅を構成する博物館は、消化不良になるだろう。ショップで買った「南方マンダラ(河出文庫)」も、読むのに挫折している。

JR 紀勢本線白浜駅よりバスで約 15 分+徒歩 10 分。パンダのいたアドベンチャーワールドの町。

会費のご案内

会費の変更はありません。これから納入の方は同封の振込用紙をご利用ください。

◆ 個人会員 2000 円

◆ ファミリー会員 3000 円(ファミリーとは、同居または扶養家族をさします)

山岳博物館窓口では友の会会費を扱いません。総会以外での納入は振込、振替でお願いします。

ゆうちょ振込振替口座番号 00550-2-24194 加入者名 山博友の会

※ 賛助会員、学生会員につきましてはお問い合わせください。

※ 多く振り込まれた場合は寄付とさせていただきます。返金はありません。

※ 会員証は追って一括発送いたします。到着までは振込受領証をご提示ください。

ゆきつばき通信編集室より

桜も早く咲いて、新しい年度となりました。今号は、総会を受けた内容も盛り込まれています。友の会のこれからをどのようにしていったらよいのか、下記アドレスにご意見をお寄せいただければ幸いです。また、本号では 7 月の遠見尾根トレッキングのご案内をしています。登山道脇の花々、白馬五竜高山植物園の花々が楽しめると思います。晴れれば、カクネ里氷河が眺められます。5 月の博物ハイキング - 木崎湖編は 3 月に山と博物館に同封した号外をご覧ください。

(編集担当:丸山卓哉 投稿先:takuya-m@juno.ocn.ne.jp)

ゆきつばき通信 第 205 号

発行/大町山岳博物館友の会 2026 年 4 月 26 日

〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1

大町山岳博物館内 山博友の会事務局 Tel/Fax 0261-23-6334



山博ページ <https://www.omachi-sanpaku.com>

友の会は、山博の情報発信のために山博ホームページの維持に協力しています